

千葉県香取市佐原イ

くつろぎの宿

古民家や蔵などを宿泊施設に改修し、町並みの保存継承と滞在型観光振興の双方を実現する。その目的のため、ホテルへの改修の鉄則はこう定められた。「耐震強化など天がかりな内部工事をするが、外観は創建時を復元し、優美な指し物や天井など佐原の意匠を表すものはそのまま残す」

たとえばカフェ棟「GEI-S

歴史を紹介し付加価値



宿泊棟「GOKO」の一室。和紙とお香を商っていた商家の裏手にある資材蔵を改修した。入り口には蔵の造作がそのままある。ホテルの棟名はすべて、香取市の市花である花菖蒲(はなしょうぶ)の名を付している。「GOKO」は江戸系花菖蒲「五湖の遊」から名付けた=近藤浩之撮影=「GOKO」へと改修作業する様子。中央右にあるのが資材蔵=2018年9月25日撮影、佐原信用金庫提供



古民家や蔵などを宿泊施設に改修し、町並みの保存継承と滞在型観光振興の双方を実現する。その目的のため、ホテルへの改修の鉄則はこう定められた。「耐震強化など天がかりな内部工事をするが、外観は創建時を復元し、優美な指し物や天井など佐原の意匠を表すものはそのまま残す」

たとえばカフェ棟「GEI-S

HO」は東日本大震災の地盤沈下で6段傾いたという。地盤強化剤を注入するなど天工事をしたが、その外観は1855年に建設された当時の威容のままだ。創建時の趣や風情を残して再生すれば独特的の快適さを生む

が、短所も残る。宿泊棟は、職人手作りの檜風呂など高品質な一流の調度品をそろえている。

だが、都心にある同程度の宿泊料のホテルなどと比べれば建

物の構造上、断熱性や気密性などは劣ってしまう。それでも「滞

在したい」と思ってもらえば、どうしたらいいのか。

創建時の風情生かす

宿泊・飲食運営を担うバリューマネジメント店舗統括部の吉田覚さんが言う。

「お越しになる前やチェックインの際、建物を残して歴史ある時間の中で、ゆったりと滞在

いたくのが当ホテルのおもてなしであることや、お部屋の歴史や造りなどを説明します」

つまりホテル価値のプレゼンテーションだ。吉田さんは街のコンシェルジュでもある。

「旅の目的やニーズに合わせ、お店や特産物、観光スポットなど流れる佐原で、ふだんできない家族との対話を楽しんだり、しつぽりとお酒を飲んだりして、時間を忘れるような場を提供したいからです」

それが、このホテルに泊まる醍醐味でもある。【近藤浩之】